

平成22年1月1日発行

会員各位

協会だよりー205(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2010年年頭の挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員各社並びに関係各位におかれましては、ご家族ともども晴れやかな新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、100年に一度とも言われる金融危機から、恐慌に匹敵するような信用収縮、大幅な景気後退という真っ暗闇の年明けとなりました。自動車、電子機器、さらには情報産業にいたるまで、ありとあらゆる産業活動が軒並み5割を切る操業を強いられるなど、まさに未曾有の経済危機でありました。私どもの業界でも、金属価格の暴落と円高、需要減退という大変苦難な幕開けでありました。



触媒資源化協会
会長 大井 滋*

その後、“Change”を掲げて就任したオバマ新米国大統領のリーダーシップによる緊急金融・経済対策、あるいは中国の40-50兆円に及ぶ大規模財政出動などにより、国際的な金融危機が落ち着いたことや、中国を中心とした需要喚起、日本政府によるエコポイント制度を活用した、特に家電・電子関連製品、およびハイブリット車などの環境配慮型製品に対する助成金支給等の販売促進の効果もあって、経済危機を脱し、第3四半期辺りから、緩やかではありますが、景気回復傾向を辿りました。

我が国でも、長く続いた自民党政権に替わって民主党を中心とする連立政権が誕生しました。野放しの自由主義経済体制への修正とこれまでタブー領域であった省庁予算の大幅な見直しによる歳出カット、いわゆる「事業仕分け」が公開で実施されるなど、国民の期待に応えています。しかしながら一方で、普天間基地の移転、ガソリンの暫定税率廃止、こども手当の実施など選挙前公約、所謂マニフェストの実行を巡って、鳩山首相自身を含め、政府および与党内の意思決定で足並みが乱れており、こうしたことが今後の景気に障害とならないか、懸念要因が残されて

いるのも事実であります。

こうした事業環境悪化の中で、産業活動低迷を背景に産業廃棄物などリサイクル対象品の発生量が減少し、会員各社におかれても、操業度低下を一時的に余儀なくされたことと存じます。それでも昨秋以降、景気回復とともに操業度も改善しつつあると承知しておりますし、時代の要請として、地球温暖化対策としての二酸化炭素排出制限に関連する事業、例えば太陽光発電や電気自動車、あるいはこれらに消費されるレアメタル素材のリサイクルは貴重資源の有効活用、つまりは「循環」として益々脚光を浴びていくものと確信しております。会員各社がこれまで培ってこられました技術やノウハウが一層活躍の場を得ようとしていることはご同慶の至りであります。この流れは少々の景気変動で変わるものではありませんし、むしろ胸を張って大通りを歩む時が来たのだらうと感じている次第であります。

今年は庚虎（かのえとら）年で、「庚」は次の成長を目指して物事を新しくするという意があるそうですし、またこの年生まれ人は「騎虎」といい、千里を走る虎といわれております。つまり、この干支の特長は「新たな目標に向かって突っ走る年」と意識できるのではないのでしょうか。言い換えますと、「振れずに正しいと信じた道を一途に駆け抜けよ」と示唆しているようにも解釈できそうです。

以上を念頭に、当協会といたしましても、貴重な資源の一層の循環向上を目指し、会員各社の事業展開が一層円滑になりますよう、連携を深めるべく、当協会の活動の発展的な拡充や基盤整備などに取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、旧に倍してのご指導、ご鞭撻のほどをあらためてよろしくお願い申し上げます。

最後に、会員各社の益々のご発展と、関係各位ならびにご家族が本年もご多幸、ご健勝で過ごされますことを祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

*日鉱金属（株）執行役員 金属事業本部 環境リサイクル事業部長



<トピックス>

- 2月4日(木) 15時25分より第205回月例会(講演会・新年会)を開催(場所:新日鉱グループ・六本木木クラブにて)



暮れの表参道交差点にて

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 経済産業省関係
【予定事項】
- 三. 新規会員の紹介(株光正)
- 四. 触媒資源化実績報告書について
- 五. 事務局より(二年度の予定)
- 六. 【雑字】順不同、飛び飛びの奥の細道
(7) 山寺編

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー204(12月号)をメール&郵便で送信(12/1)
- ② 第一回広報委員会
日時:12月10日(木)16:00~
場所:ジョンソン・マッセイ会議室
議題:HPの更新効果、協会のアピール検討

【予定事項】・・・日時が接近している為2月上旬の予定も御案内しています。

- ① 第五回運営委員会
日時:1月15日(金)15:30~
場所:堺化学工業(株)会議室
議題:205回月例会の準備、他
- ② 第三回役員会(木)
日時:2月4日(木)13:30~14:45
場所:新日鉱G・六本木クラブ
議題:第35期総会に向けて、他
- ③ 第205回月例会(講演会・新年会)
日時:2月4日(木)15:25~20:00

場所：新日鉱G・六本木クラブ

演題：日本と世界の資源戦略

講師：中村繁夫氏（アドバンスト マテリアル ジャパン(株)代表取締役社長）

④ 第二回調査・技術委員会（委員長と日時調整後開催）

日時：2月

場所：日興リカ(株)会議室

議題：平成21年度分の資源化実績報告書の発行に向けて、他

2. 経済産業省(METI)関係（化学課よりのメール連絡）

- ・12月2日 改正省エネ法について
- ・12月14日 温暖化基本法に関する意見募集について
- ・12月21日 「競争法コンプライアンス体制に関する研究会 報告書案」について

3. 新規会員の紹介

日本無機化学工業(株)河野照男氏(運営委員)の紹介で平成22年1月1日より株式会社 光正殿が
入会されました。以下に光正殿の簡単な紹介をいたします。皆様宜しくお願ひ致します。

【株式会社 ^{こう せい}光正】

住 所：〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町2-11 光正ビル

代 表：代表取締役 駒谷 光豊

TEL03-5652-0901 Fax03-5652-0905

設 立：1979年4月

資 本 金：102,500千円

従業員数：64名

担 当 者：柴田 啓佑氏(営業部)

資源化事業内容：超硬材からのリサイクル粉の製造

4. 触媒資源化実績報告書について

調査・技術委員会で編集発行を担当している触媒資源化実績報告書は平成18年度分より、その処理するソースを使用済触媒、触媒以外のソースと二分し、さらには触媒以外のソース由来を分類することにいたしました。さらに平成20年度分からは、簡易な処理フローチャート、周期律表のページを加え編集しています。この一部は協会のHPでも紹介し、資源回収に関心のある大学、大学院の教員、学生、資源らのリサーチ会社より大変好評をいただいています。また対外的な好評のみならず、内部会員よりも内容が非常に見やすくなったとの御意見もいただいています。調査・技術委員会ではさらに改良すべく2

月より平成 21 年度分の編集に向けて活動を開始することになっています。会員各位にもデータ提出依頼が早まりますが、平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月までのデータ集計と提出を 4 月にお願いすることになります。より報告書の価値を高めるためにも宜しくお願い致します。

5. 事務局より(1月度の予定)(○は出勤日です)

曜日	月	火	水	木	金	土
1 週	12/28	12/29	12/30	12/31	1	2
	○	冬期休暇	→	→	元旦	→
2 週	4	5	6	7	8	9
	×	○	×	×	○	×
3 週	11	12	13	14	15	16
	成人の日	○	×	×	第 5 回運営委	×
4 週	18	19	20	21	22	23
	×	○	×	×	○	×
5 週	25	26	27	28	29	30
	×	○	×	×	○	×

事務所延べ出勤予定：8 日

6. 【雑学】順不同、飛び飛びの奥の細道（7）山寺編



山寺駅名の由来



芭蕉記念館側より山寺を望む
○で囲んだ辺りです。

飛び飛びの奥の細道は169号(07.01)で芭蕉庵・採茶庵を紹介してから3年が過ぎました。35号振りの本当の飛び飛びになってしまいましたが、大人の休日クラブ・パスを利用し、9月初旬、秘湯と言われている米沢・大平温泉(滝見家)、山形・蔵王温泉(岡崎家)を訪ねた帰りに、芭蕉で有名な山寺(立石寺)に寄りましたので紹介いたします。

思うにその昔、芭蕉と曾良の一行は平泉を見物し藤原3代の栄華に思いを寄せ、兵どもの夢の後に感慨します。平泉より北へは向かわず、南西方向の岩出山、鳴子温泉から尿前の関を通り出羽の国(山形県)へ向かいます。この尿前の関では「のみ しらみ 馬の尿する枕もと」という有名な句があります。芭蕉には状況をデフォルメするのが上手で、半分実態どおりで半分は修飾

と思われま。この句は尿前の関の尿^{にょう}を強調したのではないでしょうか。さて芭蕉さん達は難業苦行して奥羽山脈を超えたため、暫く尾花沢で休養します。その後、大石田を經由、山寺「立石寺」に着きました。私たちは山形よりJR仙山線を利用して「山寺駅」に着きました。山寺の駅舎には駅名の由来が表示されています。登山道入口にある茶屋のおばさんと歓談した後、そこで千円なりを奮発し、山寺登山記念の杖を購入して石段の登山に備えました。



山寺は急峻な岩山に、山頂近くの奥の院まで約1200段の石段が作られています。そのため奥の院横の五大堂は眼下に山寺の街道を望める展望台としても有名な場所です。芭蕉と曾良の銅像に見送られ、いざ石段にチャレンジです。最近、あまり足を使わず、また体重過多(メタボ)には、1200段の登山は、かなり足に効き目がありました。なんと帰宅後一週間太ももとふくらはぎの痛みが続きました。反省！

芭蕉さん達は、江戸から歩いてきたわけで、この山寺も「しづけさや 岩にしみいる せみの声」など俳句を詠みながら、すいすいと上ったのであろうか。羨ましいやら、昔の人はなんと健脚であったことか！



閑さや 岩にしみ入る 蟬の声

拝観料入口の手前に、この歌碑を挟み芭蕉と曾良の一休みしている銅像が有ります。拝観料を納め、さて石段にチャレンジです。

かなり休憩しながらも好天の中、息絶え絶えになりながら、やっと奥の院へ着きました。お参りを済ませて、ここまでくると暫く景色の見物です。以下は下登山中の写真です。



芭蕉の銅像

五大堂に着き、下界の景色を楽しんでいると、汗がスーと引いて行きます。苦勞して登りましたが残念ながら、いよいよ下山です。ここでは茶屋で買った千円の杖が大きな武器となりました。最後に芭蕉の銅像に別れを告げて、山寺の登山は終了しました。帰りは、駅前で食事後、JR仙山線、山寺駅より仙台に向かい、東北新幹線「はやて号」で帰京しました。電車に乗っていた時間としては山寺～仙台間よりも、仙台～東京間の方が短いのです。皆様も、たまには時間のかかるローカルの旅も良いのでは。

(文責：専務理事)